

## 【小学校3～4年生】

### 時には「子供と親だけの話ができる」親子の関係が安心

小学校の中学年は、友達との人間関係も広がり、親より友達が大事になる時期です。また、親に秘密を持ち始める頃でもあります。また、親に秘密を持ち始める頃でもあります。また、親に秘密を持ち始める頃でもあります。

例えば、9歳や10歳なりに、友達の仲間に入れなかったり、仲間外れにされることは、凄く怖いことだと感じています。みんなの言うことが分らなかったり、嫌だと思ったりしたら、家に帰ってきて、友達の悪口もたくさん出てくるかもしれません。こんな時は友達でなく、頼りにしている親に解ってもらいたいと思っているのです。

子供が興奮して話しをしている時は、それを遮らないで、「この子は私に何を伝えたいのかな？」というように思いを巡らせながら最後まで聞いて、「そうかあ、あなたも大変なのね」と関心があることを伝えるような相槌を打ちたいものです。子供はお母さんやお父さんと秘密を持つことで安心して、怖いことから避難できるでしょう。ですから、子供の話を“悪口だからダメ”とすぐに言わないで、最後まで丁寧に、時には質問しながら聞きましょう。

また、子供の話を聞いていると、「へえ～、こんなことを考えられるようになったのだ」という新たな発見をすることもあり、成長を感じることができます。

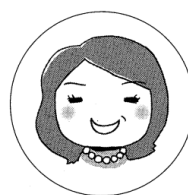
こういう、あまり友達など他人には聞かせない話を子供と親だけでできることは、親子の関係がとても良好に保てているということだと思います。このように子供とコミュニケーションを取っていると、子どもは安心して、困ったときにきちんと親に相談出来る子に育っていきます。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」  
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐ実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。



墓田さん



森さん